

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.8.17-23

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:1 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。

11:2 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。

11:3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわし、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」

11:4 ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかがめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」

11:5 それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。

11:6 もし恵みによるのであれば、もはや行ないによるのではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。

11:7 では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです。

11:8 こう書かれていますとおりです。「神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。」

11:9 ダビデもこう言います。「彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。」

11:10 その目はくらんで見えなくなり、その

背はいつまでもかがんでおれ。」

11:11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょう。絶対にそんなことはありません。かえて、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

11:12 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。

イスラエル人の多くは信仰による救いを受け入れませんでした。イエス様を十字架に付け、キリスト者たちを迫害しました。パウロは「神はご自分の民（イスラエル）を退けてしまわれたのですか。」と問いかけますが、その結論は「絶対にそんなことはありません。」ということです。

イスラエル全部が主イエスへの信仰による救いを拒絶したかということ、そうではなく「今も、恵の喜びによって残された者が」いるということです。イスラエルには救いの希望があるのです。今は救いが異邦人に及んでいますが、それは「イスラエルにねたみを起こさせるため」だということです。律法による救いを頑なに固辞し、選民意識で他国を圧倒しようとするイスラエル民族も、救われている異邦人を見て、羨ましさやさらにはねたみまで感じて、心が変えられていくということです。

確かに現在のイスラエル宣教はそのような方法によるようです。救いの教理や説得によるのではなく、異邦人の信仰と愛を見せることによって、宣教がある程度まで進んでいます。

それは日本人に対しても同じです。異教の風習に染まった地域を、説得ではなく信仰の愛を見せることで、宣教が進むのです。心が開かれていな

い人や社会では、それが主の御心と言えるでしょう。私たちもそれを実践しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。

11:14 そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。

11:15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

11:16 初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。

11:17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、

11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

11:19 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。

11:20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。

11:21 もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

11:22 見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。

11:23 彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わせる事ができるのです。

11:24 もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもの、もっとたやすく自分の台木につがれるはずで

パウロは「何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っている」というほど、イスラエルを愛しています。その愛を持ってとりなし祈り、思索するとき彼に与えられたイメージは、オリーブの枝です。

根にあたるのはイスラエルで、彼らの不信仰によって折られてしまい、その後には異邦人がつがれたのですが、異邦人は「高ぶらないで、かえって恐れ」なくてはならないというのです。なぜなら「いつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされる」からです。それはイスラエルとも同じです。

しかし「神は、彼らを再びつぎ合わせる事ができるのです。」から、神のいつくしみときびしさの両方に目を留めていきましょう。

同じように私たちも自分の救いで高ぶることなく、常にいつくしみの中に留まりつつ、安心して感謝して、主に喜んで従っていきましょう。イスラエルに対しても、まだまだ救われていない人々に対しても、パウロのような愛を持って祈り考えて、「何とか…救おうと願って」行動していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

11:26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということ。こう書かれているとおりで、「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。

11:27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」

11:28 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。

11:29 神の賜物と召命とは変わることがありません。

11:30 ちょうどあなたがたが、かつては神に不従順であったが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けているのと同様に、

11:31 彼らも、今は不従順になっていますが、それは、あなたがたの受けたあわれみによって、今や、彼ら自身もあわれみを受けるためなのです。

11:32 なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。

11:33 ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りたくないことでしょう。

11:34 なぜなら、だれが主のみごころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。

11:35 また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。

11:36 というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

神様はイスラエルに御自身を表しましたが、それは律法の行いでは救われないということを明かにするためにした。イスラエルは神から捨てられることによって、その働きをしたとも言えるのですが、それでは神様の愛が成り立ちません。

神様は「イスラエルはみな救われる」という民族的な救いを用意して、愛を実現なさるということです。私たちにしても同じ神様です。「神の賜物と召命は変わることがない」のです。クリスチャンは選ばれたものですから、その確かさを確信して感謝しましょう。

このイスラエルを霊的なイスラエルであるとして、クリスチャンを指すのだという解釈もありますが、パウロが同胞と言っていることからすると、無理な解釈です。イスラエルは歴史上のイスラエル民族です。だからこそ神は歴史を導くことができるのです。

「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りたくないことでしょう。」という通りです。私たちの人生においても神様のみわざを思って、主の驚くべき御計画に感謝しましょう。自分の人生に主の御手を見出して、そのご計画に沿って行く決断をしましょう。

①神のみごころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願ひします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。

12:3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

12:4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、

12:5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。

12:6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。12:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。

12:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。

「そういうわけですから」とは、このように神様の確かな御計画と、十字架の贖いによって救われたのですから…ということでしょう。このように揺るぎない神の絶大な力によって救われた私たちはどのように生きるべきでしょうか。その答えが「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」ということです。

「生きた」というのは、犠牲の死ではなく、その生き方によってということです。人生をささげるということですが、それはただ生きていけば良いというのではなく、「神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変え」るのです。

そこでパウロは具体的な生き方について論じていきますが、何と最初に述べるのは教会での兄弟姉妹の交わり、それも関係性についてのことです。それこそが、救われた者の生き方の基本になってゆくからでしょう。

パウロは互いを尊重し合うことを命じていますが、それは単に気持ちの問題ではなく、現実のこととして論じています。すなわち「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っている」ということです。

ここにある7つの賜物は、その気になれば誰でもできることです。ですからこれらは能力ではなく、気質に関する事柄です。クリスチャンは誰もが違った観点、感性、動機、意見を持っているのです。この違いが不一致をもたらしめているように感じることもありますが、実はそうではなくこの違いが相補性であって協力の原点なのです。そうしてクリスチャン同志は一致するのです。

自分と違った観点、感性、動機、意見の人を批判せず、尊重しましょう。さらに自分にはないものを見出して、賞賛し学びましょう。それを訓練として続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。

12:10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると信じなさい。

12:11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。

12:12 望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。

12:13 聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。

12:14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。

主イエスが言われたように、クリスチャンと言えども「世にあっては患難が」あります。ですから、世の人と同じような“生きにくさ”も感じるでしょう。そのようなときも、「聖い生きた備えもの」として歩んでいるなら、乗り越えることができます。

「互いに自分よりまさっている」という考えは、人間関係を明るくものにします。「勤勉」な生き方は社会的な部分を好転させるでしょう。「迫害する者と祝福するなら」人間関係の勝利者になることができます。「神の怒り」があるからです。

信仰によって、神のみこころと神の国の原理に沿って生きて、勝利を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。

12:16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っははいけません。

12:17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。

12:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。

12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

12:20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。

12:21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣く」というが、愛する者のあり方です。人と同じように感じる事ができれば、その人を愛することになるでしょう。これは愛の目標でもあります。

しかしまたこれは難しいことでもあります。おそらく人間の力や努力ではできないことで、聖霊によって初めてできることでしよう。

「高ぶった思い」は、一つ心になる一致を壊します。自分の考えが最善と信じて、人の考えを受け入れなくなるからです。自分と違う意見によく耳を傾けましょう。

誰でも人から悪を受けるときがあります。それに対して同じものを返してやろうとは思わずに、逆に、善で報いてやろうと思うことができれば、その人は信仰の人です。私たちは神を介して交わっているからです。

どうしても相手が赦せないというときは、復讐してやりましょう。ただしそれを自分ではなく、「神の怒り」による復讐です。相手に良くしてあげることは、神様からの報いを大きくすることになるのです。神様が公正にさばいてくださるからです。もしも自分でやり返してしまつたら、神様は「復讐」して下さりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。

13:2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにとむいているのです。とむいた人は自分の身にさばきを招きます。

13:3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。

13:4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。

13:5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。

13:6 同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。

13:7 あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならない人にはみつぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい。

「上に立つ権威に従うべきです。」とありますから、法治国家では法律に従うべきです。ただし、国家が絶対かというとはそうではなく、あくまでも「神によって立てられている」という条件のもとで、それが成り立つのです。

ここではパウロはシンプルに、社会の秩序を守ることを勧めています。「善を行いなさい」とあります。法律を守り、税を納め、上に立つ権威を尊重することは、証しの立つ生き方です。

社会や職場や学校を変えようとするなら、主の御心を聞いて、平和の神にふさわしいやり方を選ぶ必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

